

六月十三日つづき

十時四〇分院レクチャー。光と建築について。琉球大学の学生が聴きに来ていて、レクチャー後少し話した。遠くからワザワザ、こつこつという学生は嬉しい。父親は沖縄で設計事務所をやっているそうだ。藤沢の高橋さんよりメール。引越すべきか否かの相談である。

木枕、正三郎が売れ始めた。どんな反応があるか楽しみだが、インターネットを動かしている面白さはコレなのだ。

十三時前研究室OG佐藤来室。高橋晶子さんのところに引き取って頂いた人間だが、元氣そうで何よりである。七月にメシを喰う約束をする。何だか、私も次第に教育者然としてきてしまっているな。辛いが、これも又仕方ない。筑波大、院入学希望者に次いで、十四時OB大野来室。四年間社会勉強して院に戻る事を決心したそうだ。理想的なプログラムだな。しかも三年は牧師生活で、余りにも沢山の人間の人生と対面してきたそうだ。健闘を祈る。今日は色んな人間が来るな。

十五時大連プロジェクトミーティング。十七時過、東大鈴木研究室へ。久し振りに伊藤先生にも会い、伊藤研で東大出版会の出版の件。京大山岸先生を交え、座談会。その後、近くの料理屋で会食。大人達との会食は語らぬところの間があって楽しい。

六月十四日

九時大学。九時半追分へバス四台でスタート。建築学科の新入生オリエンテーションで軽井沢の追分セミナーハウスへ。十三時着。子供みたいな一年生と話す事は無いだろうと考えていたから、これ迄一度もこの会には出た事が無かったが、やはり一年生とは話す事が何も無いのでTAの院生をかまってみる事にした。李祖原も新入生の子供振りには仰天して、テリブル・スチューデント、テリブルの連発である。夕食は新入生と一緒にしなくてはならず、話しかけてくる奴がいて地獄であった。私には大学一年生と話す言葉が全く無いのである。漫画だなコレワ。欠席した方が良かったな。学生にとつてもその方が安穩であろう。夕食時材料の輿石助教と初めて色々話しが出来たのが収穫であったが。

私だつて勿論大学一年生なんて恥ずかしい時があつた。記憶をいくらたどつても、大学生活は何も思い出せない。ほとんど山登りに明け暮れしていたから、先生とも賢明にも接触しなかった。大学生活に帰還したのが、三年生の後半ぐらいからだつた。実質的には四年次からだつたな。学部一・二年生のライフスタイルは日本のそれには多大な問題があるような気がする。一般的な教養を低学年では身につけるべきじゃないかな。十九時過宿舍へ帰り、寝てしまう。体を休めなくては。二三時三〇分風呂を使い、色々考える。学生の幼児的退行現象が指摘されて久しい。増々それは拍車がかかっているように思う。これから先、近未来のグローバル・スタンダードの熾烈さ、スピードについて行ける筈がない。又、その必要もない。これ迄の日本の産業社会は謂わゆる組織力と単純なモノへの好奇心で支えられてきた。私は基本的に日本はグローバル・スタンダードの速力から早く降りてしまふべきだろうと思う。国土に見合った人口まで総人口が減少するのを当然想定して、それなりのスケールの生産と消費モデルを作り、ある程

度まで食料の自給率を上げて、その事に保有の技術力を使うべきである。工業化ではなく、科学化された自閉的農業を目指し、テクノロジーを組織化すべきだ。

六月十五日

六時半目覚める。よく寝たが、よくは眠ってはいない。眠るのも体力だが、これは弱くなった。当然な事ではあるが……。仕方ない。七時半朝食。九時より学生が昨夜作ったモノの講評をする。手を抜かずに行った。十二時昼食。十四時東京へ出発。十七時高田馬場着解散。

十八時世田谷村に戻る。疲れて予定していた室内原稿書けず。情けない。